

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会 平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「かがやいて・いのち」

射水市立小杉小学校 4 学年児童
平成22年1月22日実施

【いのちの先生】

太田 友恵先生

・世界移植者スポーツ大会水泳競技金メダリスト

【授業の概要】

- 1 担任の話（「いのちの先生」の紹介と導入）
- 2 「いのちの先生」の話
 - (1) 導入、話の聞き方
 - (2) 劇症肝炎「あと1週間の命」
 - (3) 世界移植者スポーツ大会に参加して
 - (4) 周りの方への感謝
 - (5) 質疑応答
- 3 感想記入



16時間にもおよぶ手術や術後の合併症、引きこもり等の時間が「宝物のような体験」と明るく笑顔で話される姿に、子どもたちは勇気と感動をもらった。お礼に「負けないで」の歌をプレゼントした時に、涙を流される太田先生の姿にまた感動させられ、生きることのすばらしさやいのちの大切さを改めて実感した時間となった。



～お話を聞きして～

太田友恵先生は、「もらったいのちを人のために使うにはどうしたらいいか」と悩んだことがあると言われました。ぼくは、もらったいのちを人のためにどう使うか考えることは大切だと思いました。病気を乗り越えて自分を変えてきた太田先生はすごいと思いました。太田先生のかかった病気や悩まされたことは、変わるために必要なことだったのかもしれないと思いました。ぼくも、時間を人のために使えるようにがんばりたいです。

～お話を聞きして～

最初はお父さんが肝臓をあげると言っていたけど、弟が「僕の肝臓をあげる。」とあって、太田さんは肝臓を弟からもらいました。私は、兄弟姉妹は大切なんだなと思いました。いつもケンカしているけれども、これからはもっと仲良くしたいです。また、いつも当たり前だと思っていることも、病気にかかってしまったら当たり前ではなくなることを、太田さんに教えていただきました。これからはもっといのちを大切にしたいと思います。

～お話を聞きして～

太田さんの笑顔がとてもすてきでした。弟さんが、太田さんに肝臓をあげたのは、太田さんがとても大事な存在だからだと思いました。助かったいのちを使って、何か役に立つことができないうちを探していたお話は、とてもすてきだと思いました。太田さんは、変わるためには失敗を恐れなくていいので、ぼくもそんな人になりたいと思いました。太田さんはつらいこと、苦しいことがあっても、乗り越えてこられたところがすごいと思います。ぼくも誰かのために生きていきたいらいいと思いました。